

## 【報告】《目白まちづくりフォーラム》

2012年2月25日土曜日に《目白まちづくりフォーラム》が開かれ、井上事務局長が講演しました。前回の1月16日月曜日に開催されたフォーラムでは当NPO理事の(株)イトーヨーギョー井上了介氏が狭小道路での電線類地中化の方法(DDBOXシステム)というテーマでプレゼンされています。

講演に先立ち、主催者である目白地域協議会コミュニティ道路検討会の活動報告があり、行政側から出席している豊島区宮川道路整備課長から「目白古道」の整備に今年度300万円、来年度1,500万円の予算が計上されているとの報告がありました。

会場には、目白古道及び目白小北側道路のコミュニティ道路(歩行者に安全な道)化計画提案パネル、目白の古地図と昔の写真展、目白の庭先巡りと電線地中化の研究、そして当日午後に行われる講演「感応寺と目白」に合わせた感応寺の解説パネル展示などがあり、さらに地区の新聞(めじろ)や理解を進めるためのコミュニティ道路の資料が配布され、活発な活動をされている協議会との印象を持ちました。

今回のフォーラムでは二つの特別講演が企画されており、一つ目が都市環境研究所の大野整氏による「庭先とまちづくり」で、二つ目が井上事務局長の「魅力的なまちづくりと電線地中化」です。

大野氏の講演は、目白地区で見つけたステキな庭先を写真で紹介し、目白の庭先の特徴として、地域のシンボルとなる「地域のお宝の緑」と街並みを演出する「暮らしの緑」の二つがあり、目白の豊かな生活空間を形成する大切な要素となっているとして、道路という公的空間と個人宅の私的空間の境界領域である庭先に、少しの工夫すなわち緑の空間を持たせることで、街並みの価値が変わってくることを、塀と道路の間に30cmの空間をつくり緑化することで景観が大きく変わるなど事例を示して説明されました。

街並みの景観を守るには、①良いものを共有し増やす②小さい単位から少しずつ進める③楽しみながら進める、ことが必要と強調され、まちづくりには「まちづくりで作ったルールがマナーとして定着し、マナーとして守ってきたことが地域のルールになっていく」、そんな雰囲気醸成が必要と結ばれました。

井上事務局長は、大野氏の講演を引き継ぐ形で、ステキなまちづくり、安全安心なまちづくり、資産価値の高いまちづくりなどには「電線地中化」が欠かせないとして、当NPOの取組み、災害時の電柱・電線の危険性、電線地中化のメリットや施工プロセスなどの説明の後、目白地域の現在の姿と「電線地中化」後の姿を対比し、「魅力的なまちづくり」を力強く語りかけられました。

コミュニティ道路委員会の皆様は、電線地中化の街並みの見学や委員会での議論を通して既にかなり学習しておられる様子で聞きながら聞いておられ意識の高さが窺われました。質問では、「既存の街並みで電線を地中化した事例を説明してほしい」との声があり、元麻布での超高級マンション建設に伴う電線類地中化の例が紹介されました。

また、講演会終了後ある住民から、「練馬区で道路拡幅の話があるが、無電柱化を進めれば道路拡幅をすることなく道路空間を広くできるのではないか、NPOでは是非練馬区にアプローチして欲しい」との要望があり、事務局で対応することに致しました。(T.Y)



皆さんが日本の電柱・電線社会の現状について感じられていることをエッセイとして綴り、お送り下さい。本会報の【随想】欄に掲載させていただきます。1000～1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)とポートレート(顔写真)を添えて下さい。投稿をお待ちしています！  
NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 井上、志熊 Mail: [info@NPNPC.org](mailto:info@NPNPC.org)

「私達」が住む日本の空を、「私達」が美しい空へ変えましょう！

# 美空～MISORA～

## 第43号

発行日:2012年3月24日(土)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

## 【活動報告】2012年2月27日理事会(キャンパスポート大阪)

### ■委員会報告■

#### ◆技術開発委員会

- CCBOXを使わない場合の具体的な地中化について、DDBOXを用いた場合どうなるかを、1月16日の目白まちづくり協議会でお話した。(井上理事)
- 2月25日の目白まちづくり協議会にて、実際地中化を行なうとどのようなメリットがあるのかについて講演した。(井上事務局長)
- 電線地中化を望まれている地区からのご要望に応え、電線が消えた状態をCGで演出するというビジネスをインターネット等で行なうことを提案。(山本理事)
- 商品としての質の向上のため、さらにリアルにし、実用性を高める必要がある。(木村副理事長)

#### ◆世論形成委員会

- 次回6月22日(金)に行なうセミナーに、新顧問の藤本貴也氏を講師としてお招きする予定。近々、荒閑担当理事が東京にご挨拶に向かう。

#### ◆事業協力委員会

- 目白では地中化が進行する予定だが、無電柱化がメインではなく、コミュニティ道路を形成する過程として実践される。地域の方々に、地中化についてもっとよく知っていただく必要がある。DDBOXに関しては、現在好評を得ている。
- K市へは何度か視察に行っており、今後、電線類地中化を行う予定。
- 大津市の住民の方々からお問い合わせがあり、大津をきれいな街にしたいと仰っていた。

### ■今後の活動について■

次回総会は6月22日(金)の夕方に行なうが、会場は未定。その際の記念セミナーは、18時から100人規模で開催する予定。

### ■3月理事会の日程■

3月28日(水)18時から、COM計画研究所にて開催する。



NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク事務局 (株)ジオリズム内 担当:井上  
Mail: [info@NPNPC.org](mailto:info@NPNPC.org) <http://nponpc.org> Tel:072-653-5811 Fax: 072-653-5833

## 【報告】「電線のない街づくりセミナー」 『住宅会社の無電柱化の取り組み』

2012年2月27日(月)15時よりキャンパスポート大阪において当NPOは「電線のない街づくりセミナー」を開催いたしました。「住宅会社の無電柱化の取り組み」というテーマのもと、大規模なまちづくりプロジェクトの設計を実際にご担当された方にご講演いただきました。

最初の講演は、宝塚市のコモンステージ逆瀬川のまちづくり業務に携われた、積水ハウス㈱の土井信氏に、サステナブルなまちづくりのために不可欠な要素である「経年美化」についてお話しいただきました。



厳しい経済状況と少子高齢化に伴い、ニュータウンが衰退するなか、人が住み続けるまちを創出するためには、美しく、便利で、安全な環境にする必要があります。そのために土井氏が取り組まれたのが電線類の地中化でした。電線類地中化をすることで快適なスペースが生まれ、「かけがえのない資源」である土地を活かすことが可能になります。無電柱化を行なうと、道路が曲線になり、また、電線同士の干渉等を考慮する必要がなくなるため、設計(コモンスペース計画)の幅が格段に広がります。特に道路を円形(クルドサック)にする場合は、無電柱化したほうがよく、逆に、道路が曲線でも無電柱化されていない場合は、視界の中央に電柱が位置する形となり、景観を損ねることになります。

宝塚市と基本協定を締結させるにあたっては、地上機器の権利問題や、前例がないという理由から腰の重い行政との協議など、様々な問題を乗り越えられました。

無電柱化が実現した美しい環境が、資産価値を増価させ、住民の景観への意識を高めることで、さらにまちなみの美しさに磨きがかかっていく。この相乗効果が、時が経つほど評価される「経年美化」を支えることを、実践を基にお話し頂きました。

続いての講演は、阪南市の阪南スカイタウンプロジェクトの事業コンペおよび実施設計のプロジェクトリーダーをされた大和ハウス工業㈱の柴垣保平氏に、「美しい街並みの創出を目指した、池田緑丘開発事業での電線類地中化」についてお話し頂きました。

池田市緑丘で無電柱化が検討された経緯として、開発道路形状が複雑で、区域内に建柱すると景観が雑然とし、住宅地として好ましくなかったという理由がありました。無電柱化実現までの道りでは、幾度となく思考錯誤が重ねられました。

まず、無電柱化のコスト増の最大要因である地上変圧器を極力減らすため、電線共同溝方式、共有地併用方式、架空線供給方式という3つのパターンでの供給・接続方式が採用されました。そして、地役権設定を可能にするため、またコストの削減のために、背中合わせになった住居と住居の間に地下埋設し、共有地として取り扱うという方針が決定されました。開発完了後、池田市にて電線共同溝路線認定を受ける予定で、それにより区域内道路には電柱を設置することが不可能になるため、永続的に区域内道路の景観、環境美化が守られることとなります。

事業性から見たハードルとして、許認可・造成工程において時間がかかることや、販売エリアの土地価格の上限のクリアが難しいこと、地中化コストを抑える手法が提案できる計画地を見つける必要があることなどが挙げられました。

今後、今までの経験を基に、開発区域の形状や土地価格を考慮した上で、実施の可否や手法を決定し、提案していくという方針が掲げられています。これらの活動により、緑豊かな美しい街並景観を形成することができたと結ばれました。(文責：高梨)

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事などがありましたら、[info@NPONPC.org](mailto:info@NPONPC.org) までお送り下さい！会員の皆様のご意見、お待ちしております！！

当NPOではメールマガジンも配信しており、電線地中化に関するコラム・情報を月2回お楽しみいただけます！ぜひこちらにもご登録下さい！→ <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

## 【無電柱化を考えた方が良く考える地域の実情】

京都 室町通り

京都女子大学 阪口 愛

### 黒主山

黒主山が大通りに出るために北へ進む時、電線がないところはスムーズに進んでいましたが、電線があるところは「障害物あるから気を付けてー！スピード落としてゆっくり進みや！」という掛け声が聞こえてきて電線を避けるための棒で電線を上に上げながらゆっくり進んでいました。また松の木が電線に引っかかって揺れているところを何度も見ました。これでは予定通りになかなか進まないのではないかと感じました。

### 鯉山

室町通りを通る山鉾のなかには、電線の下を通る時だけ松の木が倒れるように仕掛けをしてあるものや、電線が引っかからないように巡行のコースを変えたものもあるようです。電線が邪魔だから無くそうとするのではなく、電線はあるものとしてそれを避けるための工夫を行ってきました。それぞれの山鉾にはそれぞれの歴史やストーリーがあって奏でられる音楽も異なります。鯉山を飾るタペストリーはブラバン・ブリュッセルの略号「B. B.」という文字が発見されたことで、現在のベルギー・ブリュッセルで製作されたことが明らかになっています。緻密で繊細なタペストリーは鯉山の誇りであることが分かりました。それぞれの山鉾がそれぞれに自信と誇りを持って音楽の演奏や巡行を行っていることが伝わってきました。

### 菊水鉾

室町通りの電線は菊水鉾があるところだけは、電線を道に沿わせて張っていました。昔、路面電車が走っていた時代は、祇園祭の際に線を全部はずして巡行が終わるまで運休していたことがあるという事実を知りました。現在は線ははずすなどということはできません。菊水鉾の関係者は、室町通りでの無電柱化をぜひ進めてほしいと仰っていました。

### まとめ

電線を避けるための様々な工夫がされていて、やはり電線は障害になっていて、それなりの対応が求められていたのだと知ることができました。みんなで掛け声を掛け合って、音楽に合わせて相当な重量がある山鉾を大勢で曳き、辻回しを行う姿は威勢が良くとても恰好がよかったです。それぞれの山鉾に歴史やストーリーがあり、今までは一つのお祭りとして祇園祭を見ていましたが、たくさんの思いや歴史が詰まったお祭りなのだと知ることができました。そんな日本の伝統文化を良い形で守っていくためにも、山鉾を曳行する通りでは、無電柱化を進めるべきであると感じました。



当NPOのホームページでも、最新情報を詳しく掲載していきます。ぜひ、こちらへもアクセスしてください！<http://nponpc.org/> フェースブックはこちら：<http://www.facebook.com/NPONPC>